



NPO/  
**SORUCA**  
NonProfit Organization/Soft Resources of Urban and Country Association

通信

春  
2021

会員 各位殿

令和3年03月01日

巻頭言

NPOソフトインダストリー研究会

理事長 白石 嘉宏

### お知らせ

年度末最後の会報の冒頭ですが、大切な事なのでお知らせいたします。  
当会の専務理事事務局長の渡辺勝範さんが1月13日に逝去いたしました。  
詳細は6ページに記載いたしました。

忖度 ここからが巻頭言です

モリカケ桜、東北新社という忖度が背景にある出来事が続いています。2014年に内閣人事局が出来てから高級官僚の人事権は内閣が扱うことになりました。役所の中でもエリートコースに乗るには中学ぐらいから東大を目指します、そして法学部に入り国家公務員試験に受かり、各省庁に入省します。もちろん東大以外の人もありますが非常に少数です。

課長ぐらいで大体将来のポジションが決まり、その後は事務次官という頂点を目指して研鑽が続きます。この間、このコースに外れた人達は途中退職します。所謂天下りと言われてるように、慰労のこともあり安定した企業や団体に厚遇されそれなりのポストに就きます。この方式は内閣人事局が出来るまでは各省庁長が各々独自に人事については扱って来ました。頂点に至る局長・審議官・事務次官の人事は時の各省庁の大臣に上奏し認可を得て来ました。その慣行が人事局が出来たために内閣府に移ってしまいました。

役所に入省し徹夜残業をいとわず勤めてきて、その勤務ぶり成果人柄が長年にわたって評価されようよう頂点が見えてきたところで、自分を良く知ってくれている所属省庁の人事担当だったのが今度はその時々内閣によりその先がどうなるのか将来が決まることになりました。

内閣府のトップは当然首相です。首相の意に添うように努めることとなります。そうした事例としてモリでは当時の佐川理財局長は栄転し国税庁長官となりました。

今回新たに菅首相のご子息による東北新社の総務省接待問題が明るみに出ました。此の接待を受けた方々にとっては出世のチャンスである一方、接待を断ることは自分の出世をあきらめるという意思表示になります。

東北新社の件でモリと異なるのは首相自らの声かけではなく倅というワンクッションが間に入っていることです。衆議院選挙はこの秋です。国民はどの様な投票行動をとるのでしょうか？

今回は此処までで筆を止めます。

## SORUCA 通信 contents

- 巻頭言 お知らせ / 白石 嘉宏
- 今蘇る「論語と算盤（ソロバン）」  
～経世済民の基本に立ち戻るべき現代のリーダー達～ / 奥原 英彦
- 渡辺勝範さんが1月13日逝去
- スポーツを考える（スポーツと人権、そして民主主義） / 坂倉 海彦
- コロナが続く中で / 白石 嘉宏
- 編集後記 / 白石 嘉宏



## 今蘇る「論語と算盤（ソロバン）」

～経世済民の基本に立ち戻るべき現代のリーダー達～

奥原英彦

7万円/人の会食費を何とも思わないエリート官僚たち、企業破産申請の直前に巨額の退職金を手に入れる経営者たち。IQは卓越しているが倫理観は地に落ちていく一部のリーダー達を見るにつけ、改めて渋沢栄一を生んだ江戸・明治時代の考え方に戻ってみましょう。

### ○ 経世済民は「人の道」（論語）であり、現代に通ず

「経世済民」は、現代では「経済」と略され、単なるソロバン勘定とみなされがちですが、政治的、戦略的、道徳（倫理）的な広がりを持った深い意味があります。特に、道徳面とソロバン勘定については、明治期の偉人であり「日本資本主義の父」といわれる渋沢栄一の言葉が有名です。

『ソロバンは「論語」によって出来ている。「論語」もまた、ソロバンの働きによって、本当の経済活動と結びついてくる。だからこそ、「論語」とソロバンは、とてもかけ離れているように見えて、実はとても近いものでもある。（中略） 国の富を成す根源は何かといえば、社会の基本的な道徳を基盤とした正しい素性の富なのだ。そうでなければ、その富は完全に永続することが出来ない。』「論語と算盤（ソロバン）」

### ○ 現代の名君も「論語とソロバン」で経営

京セラを興した稲森和夫氏などの卓越した名経営者を見ると、見事にまで、「論語と算盤」で経営されていることがわかります。

ただ残念なことに、戦後は、戦前までの「徳育」教育が占領軍によって全面的に否定されたが故に、マスコミや政府も、この社会的徳育の重要性について言及することすらタブー視されてしまいました。このため、明治時代に渋沢栄一が指摘した以上に、『「論語」とソロバンは、とてもかけ離れているように見えて』しまっています。

### ○ 道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である

一方、江戸時代の思想家であり、「報徳仕法」という貧しい地域の財政再建政策を実施したことで知られる二宮尊徳の有名な言葉に、『道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である』があります。これは、渋沢栄一の「論語とソロバン」と同じ意味と考えます。現代の行政や企業向けに解釈すれば、「道徳なき経済は犯罪」とは、公益を考えずに私益の最大化だけを狙う欧米帝国主義的行動原理は「犯罪」であり、「経済なき道徳は寝言である」とは、「社会の幸福（公益、地益）を目指す」といってソロバン経済施策のない政策は「寝言」である、ということではないでしょうか。

## ○ 「論語とソロバン」が、これからのグローバルスタンダード

世界の潮流がESG（環境・社会・ガバナンス）重視、さらには、SDGsへと、大きく変わりつつあります。

ESDやSDGsの根底には、「地球全体の公益」や「地域の地益」を優先する考え方があります。しかし、日本では、現在から200年以上の江戸時代や明治時代に、既に公益や地益を優先する「論語とソロバン」の「市場と社会」が出来上がっていたと考えられます。

## ○ ソロバン経済の基本は乗数効果

市場経済の基本構造は、ヒト・モノ・カネ（サービス）の流通が循環することで、新たな付加価値が生まれてくることにありますが、その付加価値量（ソロバン）の大小を測る「物差し」に「乗数効果」という見方があります。

計量経済分野では、産業連関表を使って、国や地域に新たな単位投入（通常は単位は金額）がなされた場合の「乗数効果」が計算できることが、広く知られています。

1+1が2.5となるか、1+1が0.5となるかは、まさに、ソロバン経済施策次第であり、「乗数効果を高めるように」ヒト・モノ・カネ（サービス）の流通を循環させることが、社会や地域の活性化にとって大事であると考えます。

## ○ 「推譲」で立て直す社会と地域

二宮尊徳が説いた報徳思想で、「勤労」「分度」と並んで、地域活性化にとって最も重要であるが忘れられているものに、「推譲」（勤労・分度により生じた余剰・余力の一部を子孫や社会のために譲ること）があります。

給付金や補助金などの他人の懐（金）で、一時はうわべを取り繕っても、永続的（Sustainable）な社会活性化は、成しえません。渋沢栄一言葉を借りれば、「地域の富を成す根源は何かといえば、社会の基本的な道徳を基盤とした正しい素性の富なのだ。そうでなければ、その富は完全に永続することが出来ない。」

人口減少、財政難、自然災害、コロナ禍など、行政運営や会社経営は、難しい時代に直面しています。このような時代だからこそ、改めて、二宮尊徳の言葉「**道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である**」を噛みしめるべきと考えます。

2021年度のNHK大河ドラマ「青天を衝け」が渋沢栄一の生涯を描くというのも、何ら偶然の一致ではなく、「論語とソロバン」が、これからの世界のグローバルスタンダードであるという日本発のメッセージと受け止めるべきでしょう。

## スポーツを考える（スポーツと人権、そして民主主義）

坂倉 海彦

2020年から21年にかけて人権や民主主義に関わる様々な事が起こっている。我々日本人にとって民主主義は正義であり、人権は国民が平等に持つものだと70年以上にわたって教えられてきたが、果たしてそれを私たちは何処まで理解しているのだろうか。またそれが唯一の正しい道なのだろうか。重く普遍化しにくいテーマであるが、新型コロナウイルスのパンデミックが様々な全人类的テーマを投げかけているこの時代にもう一度冷静に考えてみることは無駄ではないだろう。そしてその考察の中でスポーツやスポーツの祭典とされるオリンピックについても再考してみたいと思う。

COVID19が世界を揺るがす中で、非白人が多くを占める所謂エッセンシャルワーカーが次々に病死する不公平さへの強い反発が底流にあったのだろうが、アメリカで起こった白人警察官が黒人市民を謀殺した事件が引き金となり人種差別に抗議するBLM運動が激しく世界に広がって行った。改めて多くの世界で人種差別があり人権が守られていない事が強く認識されたのだ。次いで中国ではくすぶり続けるウイグル族の同化政策に加え、香港の民主化運動への当局の介入が世界的に注目され批判されるようになった。中国は市場経済を採り入れグローバリゼーション下で高い経済成長を遂げ世界第2位の経済大国になったが、かつては中国も豊かになるにつれ民主化するだろうという期待を抱かれていた。しかし今日そういう目で中国を見る人は殆どいないだろう。さらにアメリカ大統領が民主主義の出発点でもある選挙結果を信じずに、議会への武力攻撃を指示したと受け取られてもおかしくない事件が起きた。新大統領はこの事件を踏まえ民主主義の大義と復活を大統領就任式で宣言せざるを得なくなった。本来アメリカでは民主主義は自明の理だったはずであるのに。かくも現実の世界では民主主義や人権は、それを正義とするなら必ずしも良い方向に進んでいるとは言えないのが現実であろう。

そして国権、国益重視という強い力は人権、民主主義と相いれない場合があるし、経済という力も基本的には人権、民主主義に対してはニュートラル。民主主義を採り入れなくても市場経済を採り入れて力を発揮すれば経済成長が可能だと分かって、民主主義のみが強く正しいという理想は既に打ち砕かれている。そして新型コロナパンデミックで人権を抑え込める強権主義体制の方がこのような危機への対応力があるという見方が生まれる可能性すらある。IT技術による市民の行動監視や、強権を発動しての行動制限は民主主義体制下より強権主義体制下の方がはるかにやり易いからだ。

さてスポーツは人権や民主主義と無関係なのであろうか。筆者はスポーツの原点は闘争の遊び化だと考えているが、そう捉えると闘争そのものでないスポーツにとって極めて重要なのは遊びとして戦うためのルールである。ルールを守って戦うからスポーツと言う文化

が成り立ち、それが大きく体系化されてスポーツ文明を形成している。スポーツ文明が大きな世界を形成する中でスポーツを素材とする様々な経済行為、つまりスポーツビジネスが育った。遊びとして戦うルールは参加者に対して同じように適用されないとその遊びが成り立たないから、スポーツの基礎には公平、平等という概念が不可欠である。

公平、平等に権利を持つことからスポーツは出発する。つまりスポーツを認めること自体がスポーツ参加者の人権を認めることなのだ。この意味でスポーツと言う文化は人権と相性が良いし、平等という概念なしにスポーツは成り立たないのである。世界から集まるオリンピックは皆平等のオリンピックとしての人権を認められている。然しスポーツ競技者としての人権はあってもその人権が政治に参加する平等の権利として働き民主主義に結びつくかとなると話は別だ。ここに民主主義と相いれるとは限らない国権というパワーが関係してくる。

スポーツにおける平等の人権はスポーツの世界だけにしか通用しない人権なのだ。

スポーツという文化は歴史が浅くせいぜい150年位の歴史しかないが、当初は遊び化される前の闘争そのものの要素を色濃く残していた。そのため多くのスポーツがより闘争的な種目で占められ、参加者も闘争の当事者であった男性主体だった。オリンピックですら男子のみの参加から出発し、かのクーベルタンも生涯オリンピックに女性が参加することを強く拒絶していたようである。しかし20世紀後半の平和で豊かな時代を迎えるとスポーツが参加や観戦する価値の高い人類の文化へと変化し世界に定着してくる。そうなるスポーツに参加する権利を要求するという考え方が生まれるが、この権利意識は特に闘争の遊び化のため男性主体だったスポーツに女性が参加する権利を求める事から始まったのだろう。

多くのスポーツで男女間の差のない種目構成になり、さらに近年は男女別の種目だけでなく男女混合種目も増えている。男子種目中心から男女同等になった事はスポーツの意味の変質を意味するが、それに加えてスポーツビジネスの拡がりの面からも種目が増える事は望ましく、強権体制下にある国にとっても国際大会で国威向上をする機会が増えるので好ましかった。スポーツ自体は戦争などの混乱が無く、スポーツをする自由と経済力があれば実現できるので、世界中がそれぞれの政治体制を保ちながら男女平等という共有しうる人権を追及しスポーツで共存してきたのだ。繰り返しになるが現代スポーツはその本質に参加者の人権の平等という要素は求めるが、政治的な民主主義という要素は必ずしも求めない。そこで世界で最も共有しやすい性差別の追放という人権をスポーツに持ち込んで来た。その頂点が全世界に開放されるオリンピックである。

2021年になりパンデミックで1年延期された東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が女性蔑視発言をして世界が大騒ぎになった。この問題は最初に海外でより強く問題視されIOCも無視できなくなったという経緯があり、責任問題にケリを付けたのがオリンピック最大のスポンサーであるアメリカのテレビ業界のダメ出しであった。

近年のスポーツの大きな変質の中で、世界が共有できる最低限の正義である男女同権の実現にスポーツのレゾンデートルを求めて来た世界のスポーツ界やオリンピック運動の実態を考えると、森会長の発言が決して許されない極めて重要な問題だった事がよく分かるはずである。残念ながら日本のオリンピック関係者はあまりにも意識が低い事を証明したと言わざるを得ない。またこの問題を決着させたのがアメリカのテレビ業界だった事にも世界のスポーツやオリンピックが置かれた現実を垣間見ることが出来るだろう。

巻頭言の冒頭でお知らせの通り当会の専務理事事務局長を 2005 年より勤めてくれていた渡辺勝範さんが 1 月 13 日逝去されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

始めに、前回の会報の編集後記を再掲します。体調のこと天風会のことを書いています。

#### <編集後記>

定年退職をすべく、かねてからの念願であった、天風会の夏期修練会に参加した時のこと、班の座談の中で健康の問題もなく、事業に失敗した訳でもないのに何故参加したのかと問われた。その後日曜行修に毎週護国寺に通ったが、仲間入りはできなかった。この夏、心不全から腎臓肝臓が不全となり、3日間の透析と40日間の入院ではじめて、死と向かい合いました。体力の回復に合わせて、書斎の片付けをはじめました。手紙類、書類がおわり、書籍の処分です。中村天風も安岡正篤も森信三も書棚から消えました。(渡辺)



渡辺さんは

昭和 22 年 (1947 年) 2 月 2 日、

東京都武蔵野市吉祥寺で出生。

昭和 40 年 慶応大学入学、昭和 44 年卒業、

同年 松下電器産業株式会社入社

(2008 年社名変更により現在はパナソニック)、

平成 18 年 (2006 年) 退社。

同年 4 月、特定非営利活動法人ソフトインダス

トリー研究会専務理事・事務局長就任。

令和 3 年 (2021 年) 1 月 13 日、心不全により逝去。

編集後記にあるように倫理意識が強い方で船橋市の

倫理法人会の代表も務めていました。

趣味も習字を始め多く、趣味の集まりでもその人柄と優れた事務能力から幾つかの事務

局業務を兼務していました。ヘビースモーカーであったので COPD (慢性閉塞性肺疾患)

もあり、その後心臓の働きが悪くなりペースメーカーを使用していました。昨年より

ペースメーカーがあるのに心臓の働きが悪くなり、編集後記の通り昨年は入院。

1 月 27 日に手術方針を決める予定になっていましたが、その時を待たずに亡くなりました。

事務能力と人への気遣いが至らない私を終始支えて今日まで二人三脚で会の運営をし

てきました。私としては突然死だったので荼毘に臥す前の顔を見ることも出来ず喪失感

からなかなか抜け出せないでいます。コロナも続いています。加齢とともにいろいろ

身体には不都合も出て来ます。皆様に置かれましても健康には日々ご注意願います。



## コロナが続く中で

コロナにより3密のお達し、セミナー開催については春には夏ごろには開けるか？

夏には秋には？ そうして年末には忘年会を兼ねての顔合わせが出来るだろうと思っていましたがその期待は大外れ、ついに非常事態宣言。この原稿は2月25日に書いていますが、果たして3月7日には解除になるのかも心の中では淡い期待となっている現状です。

さて、それではと、セミナーに替わり本を書きそれを皆様に見ていただこうと思いましたが、配布するには紙にすると作る量、保管、発送など大変なことになるので電子出版にし、価格も250円としました（これより安くすることが出来ないという決まりなのでお許し願います）。これなら新聞よりは高いが週刊誌より安い。



最先進国の昭和から彩先進国の令和へ  
人口減少がチャンス。  
サステナブル日本 Kindle Edition

焼け跡何も無い昭和20年から、人に例えれば生まれたての0歳から昭和64年に至る44歳までの成長・働き盛り。  
令和は44歳の中年から30年、74歳の後期高齢者に向かう停滞の30年。

戦後の焼け跡には本当にモノがなく今のウオシュレットなど考えられない、新聞紙でお尻を拭いていました。柔らかい葉っぱもトイレ用紙替わり。時代が過ぎやがてデパートの包装紙が豊かさを表すしるしとなり、三越・高島屋・伊勢丹などの包装紙は丁寧に剥がしてブックカバーなどに、さらに時代が下るとデパートの紙の袋が貴重品。その時代を生きた高齢者のたどる道は「ゴミ屋敷」モノが本当に無かった時代に生きた人には今の時代、捨てられるモノが年寄りには全て貴重品。ゴミ屋敷の住人の気持ちが良く判ります。

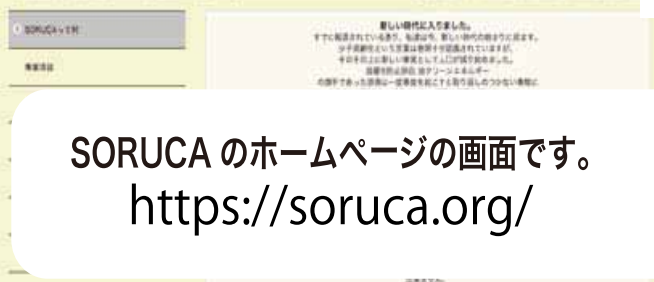
そうして時代が下り令和になると駅前ではティッシュをタダで配りモノを入れるタダだったレジ袋がゴミとなりあふれて悪者扱い、袋代金を取れば自分専用の買い物袋を持参してくるだろうとレジ袋に料金を掛ける時代に。ESG SDGsという環境経営の時代が幕開け。そういう時代に向かうこれからは人口減少の中で日本が彩先進国の国として世界の憧れの国に向かうことが出来るチャンスが来たということを本に簡明に書きました。スマホでもタブレットでもパソコンでも読めます。これからの時代を生きるために読んでください。セミナー代わりです。

白石 嘉宏

<編集後記>

コロナもこれだけ長引くと外出自粛そのものが肉体・精神に重くのしかかり疲労感が蓄積します。日頃通っていた飲み屋が営業を続けているか心配、それで三密を犯して飲みに行き、店の主人も自分もお互い顔を見合って安堵。世界でトップクラスの病床を持つ日本が医療崩壊危機と報道、不思議不思議、ゴートートラブルより医療現場にそのお金を何故つぎ込まないのか、不思議な政治家国家ニッポン。

白石 嘉宏



SORUCA のホームページの画面です。  
<https://soruca.org/>



「特定非営利活動法人ソフトインダストリー研究会」  
SORUCA 通信 (2021年 春号) 広報誌

発行責任者 白石 嘉宏  
発行所 NPO ソフトインダストリー研究会  
東京都新宿区矢来町 47 番地  
FAX: 03-3266-1764

<https://soruca.org/>

編集人 長谷川 毅

発行日 2021年03月01日



発行元: NPO ソフトインダストリー研究会